



2009年度 定例総会開催にあたって

2009年4月1日～2010年3月31日

特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ

2010.5.13(木)午後6時30分
於：仙台市福祉プラザ

2000年1月に3人で夜まわりを最初に行ってから、はや10年余りの歳月が過ぎました。当初は、私たちの住む街で誰にも知られず、何の治療も施されずに路上死・孤独死をすることのないようにとの願いからの小さな小さな働きでしたが、当事者の声に背中押されるようにして活動の質量とともに広がってきました。

その間、NPO(Non Profit Organization)法人格を取得し、法人化してから満6年を迎えております。

「思えば遠くに来たもんだ」。

気がつけば、その活動は、多岐にわたる事業という形となりました。それは、路上に陥ってしまった「ひとり」に出会い、そこから回復しての取り戻しをお手伝いをするためには大変な労力と活動内容が必須であるということの証左です。事業内容の詳細については添付の資料をご参照ください。

私たち法人の事業理念は、「支援のための支援」でも「自己各大」のためにでもなく、一度失敗しても路上に至らなくて済む「セイフティーネット」の手厚い社会の構築にあります。そのために、これまで行政各部署との懇談や交渉も定期的かつ継続的に行って来ましたし、これからもそのような社会が一日も早く訪れるよう、あらゆる手立てを講じ、活動してゆく所存です。

しかし、残念ながら、一向に上向く気配のない景気の低迷の中、一昨年からの派遣切り・雇用止めが今なお継続しており、特に一番弱い立場の派遣労働者・パート・アルバイトの方々が職を失い、途方に暮れ、万策尽きて路上生活に至ってしまう現実があります。また、厚労省で実施しているホームレスの実数調査の範囲に含まれていない車上生活者、ネット難民と言われる方々の潜在的な数も増加傾向にあります。

それらの方々が、路上に陥る前に次の職場を探せるような家賃支援や雇用対策等の施策を講すべき国をはじめとする行政も、十分な働きをしているとは言えません。職を失い、寮を追い出され、あるいは家賃を滞納してこぼれ落ちるように部屋を後にせざるを得ない方々が、引きも切らない現状があります。

憲法25条で保証されている「健康で文化的な最低限度の生活」を国が義務を履行すべく、また、路上生活を強いられている彼ら、彼女らが、主体的に選び取り、自分らしい生活を取り戻すべく、今後とも、当事者に寄り添いながら支援活動を行って参りたいと願っています。

当法人が、これまで活動を継続してくることができましたのは、何より「できることを、できる時に、できる人が」という私どもの理念に賛同し、様々な仕方で関わってくださる多くの支援者のみなさまのおかげです。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

事務局長 青木康弘

活動報告

◆夜まわり

○定例夜まわり

食事会(毎月第一土曜)と炊出し(毎月第四土曜)の週の水曜日夜に実施。年度当初は参加ボランティアが減少傾向にあったが、越冬の時期を境に多くの方々が参加するようになった。重篤な疾病への緊急対応、当事者の状況把握と関係づくりをする上で、当法人の根幹の活動である。仙台駅西口に午後8時に集合し、みそ汁、ゆで卵、果物(主にバナナ)、おにぎり、米、ガスボンベ、ホッカイロ、蚊取り線香、毛布、寝袋などの支援物資を携えて車に乗り合わせ、分散して路上生活者が起居している現場を巡り、安否を尋ねる。

○臨時夜まわり

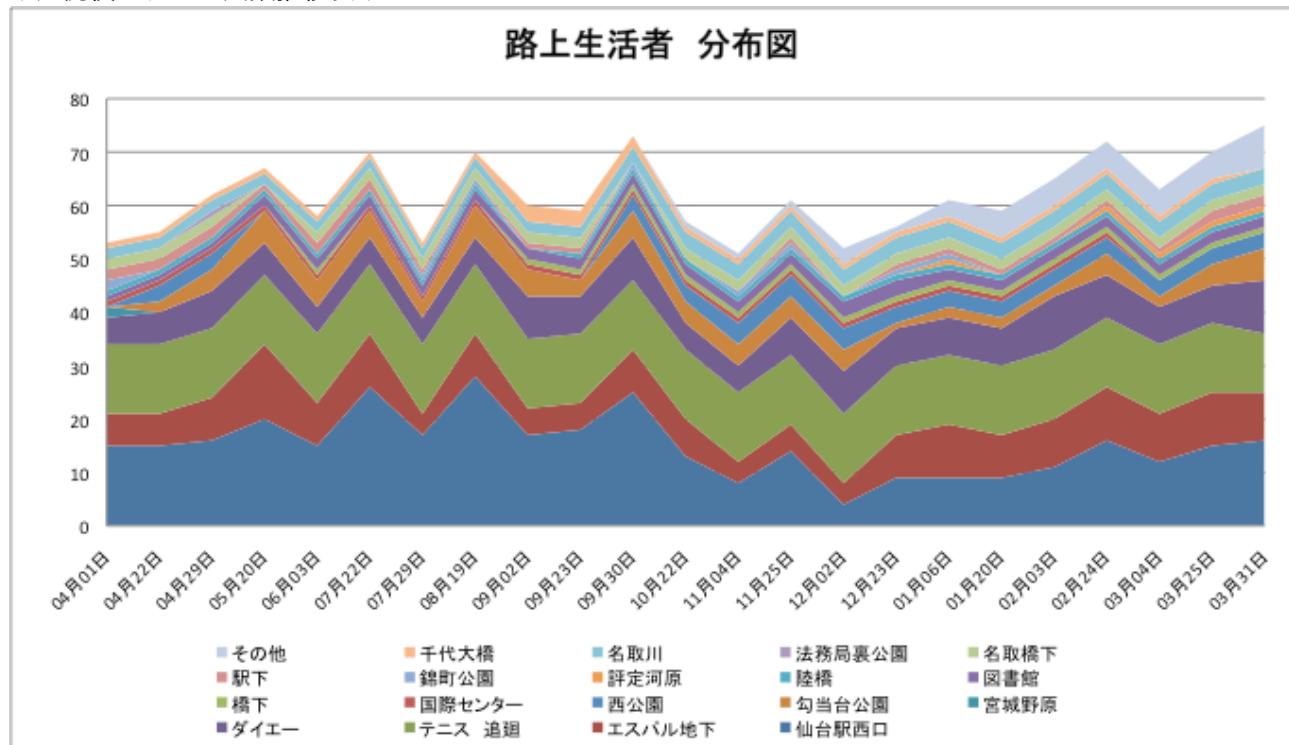
郊外に散住する路上生活、定住型路上生活者の起居場所に、隨時、支援物資を持参して仙台市内各所を訪問している。

○その他緊急出動

昼夜を問わず、行政や市民、あるいは当事者たちからの通報・要請によって緊急出動を行っている。緊急の度合いによっては、救急車を呼んだり、緊急保護を行うこともある。路上生活者等、生活拠点のない当事者を病院は入院させない傾向があるため、治療・退院後、夜まわりグループの施設で居宅保護あるいは居宅

保護をする場合が多い。

▼定例夜まわり 人数推移表▼



◆炊き出し

【実施地】五橋公園（青葉区五橋）

【実施日】毎月第四土曜日 正午～午後1時

【参加者】1,155人

今年度は、週末に電器量販店の開店セールの「並び」アルバイトで仙台を離れる当事者が常時10名前後いたため、参加者の増加があまり見られなかったが、毎回、新しく路上に出てしまった方々が参加した。

【ボランティア】(1)カレー作り：平均15人 (2)配布品整理：平均15人 (3)炊き出し当日：平均30人

【提供配食内容】

ご飯（米12～14升）

カレー材料：豚肉10キロ、馬鈴薯12～15キロ、玉葱12キロ、人参8キロ、にんにく、しょうが、トマト、コンソメ、調味料、カレールー35箱、漬け物4キロ、茶30ℓ

その他 季節の野菜付け合わせ、のど飴、菓子等

【配布品】

米、おにぎり、パン、タオル、石けん、歯ブラシ、ひげそり、シャンプー、洗剤、ボディソープ、コンロ用ボンベ、ホッカイロ、キズテープ、靴下、下着、靴、サンダル、長靴、衣類（古着）、ラーメン、カップラーメン、缶詰、食品、飴等のお菓子、大きめの旅行鞄、手提げ紙袋、毛布、寝袋、タオルケット、テント、シート、傘、蚊取り線香、ねずみ退治、ローソク、台所用品、バスカード、地下鉄カード、テレフォンカード、医薬品（傷薬等）、その他。

開催日	当事者(人数)	ボランティア(人数)	天気
4月25日	54	24	雨
5月23日	52	37	はれ
6月27日	56	30	はれ
7月25日	67	35	はれ

学校ボランティア／仙台女子商業高等学校、東北福祉大学、尚絅学院女子高等学校、東北大、宮城第三女子高校学校、東北学院高等学校、白百合学園高等学校、聖ドミニコ学院高等学校、仙台大原簿記公務員専門学校、仙台西高校、東北生活文化大学高等学校、ALT(Assistant Language Teacher)、ほか外国の方々や短期留学

8月22日	70	38	はれ
9月26日	75	33	はれ
10月24日	66	26	雨
11月28日	67	33	はれ
12月26日	65	29	くもり
1月23日	63	35	小雪
2月27日	59	40	雨
3月27日	71	30	はれ
利用者	765人	当日ボランティア	390人

◆食事会と自立支援セミナー

原則として第一土曜日に、食事会（豚汁定食の提供）・支援物資配布(配布の内容は炊出しと同じ)・清掃アルバイト登録会・個人相談を行った。・ビッグイシュー販売登録希望者は数名おられ、そのうち一人がベンダーとして仕事を始めるに至った。夏過ぎ頃から路上生活者の増加が目立った。宮城民医連のみなさんによる健康状態の聞き取りや血圧検査、治療へのアドバイス等、自分自身の健康に目を向けていく良い機会となつた。その他、法律の専門家の方々が相談会をしてくださり、多数の当事者が相談をした。今年度は、週末にアルバイト（主に電器量販店の開店セールの「並び」）で仙台を離れる当事者の方々が10名前後おられたため、参加者数の大幅な増加は見られなかつたが、それでも毎回新しい方が参加していた。

年間参加者数は945人

月	参加者(人)	天気	セミナーの主な内容
4/4	85	晴	問題解決への手だての紹介 個別相談会
5/1	73	晴	結核検診の勧め、健康相談、病院へのかかり方（治療の受け方）
6/5	62	雨	当法人の支援内容について説明
7/4	78	雨	雇用創出や就労支援の為の仕事・スキルアンケート調査実施
8/1	76	晴	食あたりや食中毒と胃炎について（薬と治療の違い等）
9/4	79	晴	特別健康相談会、血圧検査、多重債務解決個別相談会
10/2	84	晴	私物の撤去、排除の問題性と路上生活者の権利について 特別個人相談会
11/6	73	晴	アパート入居相談、アパート・施設等への入居相談の為のアンケート調査実施
12/4	83	晴	寒さに備えて凍死から身を守る方法、アルコールと凍死等
1/9	86	晴	仙台市内の路上生活者の状況と各団体・行政の支援施策説明
2/6	82	雪	地下鉄工事に伴う今後の西公園の状況説明・荷物撤去について
3/6	84	晴	勾当台公園使用に関して

◆清掃有償ボランティア 年間36回 (食事会時登録会12回 木曜日登録会36回)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
参加者数	92	93	85	106	113	177	112	115	120	123	125	119

清掃のべ参加人数 1,320人 <1回あたり平均36.6人>

◎ 参加人数の推移◎

年度	2006	2007	2008	2009
延べ参加者数	876人	1,053人	1,213人	1,320人

▼この事業は、仙台市による助成事業として実施している。助成金の主な支出内容は、当事者へのアルバイト代であるが、毎回40名以上の参加希望がある一方で、市からは一回につき30人分(年間1,080人分)の助成だけであるため、今年度は当法人の負担額が増大した。

▼生活訓練、就労意欲の取り戻しを目的に、毎月三回（第二、第三、第四土曜日）朝7時から9時前まで市内各所を清掃作業している。雨や雪などの悪天候や、遠方の清掃場所の際にもにも参加者の減少はなかった。

作業開始前に、ほぼ全員が集合場所に集まり、用具等の準備に取りかかり、開始時間とともにテキパキと動き出し、その姿が良い意味で通行者の注目を集めている。管理者の指導によって通りがかりの人や商店街の人々に挨拶をするようになり、通行者からも「お疲れさま」との声が頻繁にかかるようになってきた。これは、彼らにとっての大きな励みであり、地域社会との重要な接点でもある。これらによって「ホームレスは汚く、町を汚す」というレッテルを払拭することになればよいと願っている。また各

人もきれいに清掃した後、ゴミ等をむやみに捨てないという意識も芽生え始めている。

作業に関しては、当初よりはるかに動きが機敏になり、私語が無くなるなど、新規参加者も回を重ねるに従って賃金に値する労働をしようという気持ちが高まってきている。

当清掃事業は、収入を得る機会であるのはもちろんだが、それだけではなく、市民との交流体験の場でもあり、また対価を受けて自らの責任を果たしていく労働の意欲を喚起する貴重な機会として定着している。

さらに、毎月第一土曜日のアルバイト説明登録会や清掃事業の場において自立に向けての相談を受ける事も多く、この事業をきっかけに路上から脱した方が多数おられ、自立支援として大変効果を上げている。

▼ 増加傾向にあった参加者が4月から6月にかけて減少したのは、他の仕事（一時的なアルバイト）をしていたためで、仕事の内容は、主に「並び」のアルバイトであった。

◆ ホームレス衛生改善支援（シャワー・洗濯・理髪・軽食提供）

実施数	実施日	利用者数			備考
		シャワー	洗濯機	ゆっくり過ごす会	
4月	5回 2. 9. 16. 23. 30	137人	89人	171人	
5月	4回 7. 14. 21. 28	109人	69人	129人	雨天1回
6月	4回 4. 11. 18. 25	105人	72人	130人	雨天3回
7月	5回 2. 9. 16. 23. 30	150人	90人	157人	雨天3回
8月	4回 6. 13. 20. 27	138人	81人	156人	
9月	4回 3. 10. 17. 24	149人	93人	174人	
10月	5回 1. 8. 15. 22. 29	176人	113人	195人	台風1回
11月	4回 5. 12. 19. 26	135人	83人	145人	
12月	4回 3. 10. 17. 24	133人	88人	153人	雨天1回
1月	4回 7. 14. 21. 28	129人	80人	174人	雨天、雪2回
2月	3回 4. 11. 25	101人	67人	120人	雪1回、毎回真冬日
3月	4回 4. 11. 18. 25	119人	81人	144人	みぞれ1回、真冬日多
3月追加	1回 29	30人	17人	—	清流ホームにて
計	49回	1598人	1022人	1848人	

▼ この事業は、仙台市からの委託事業として実施している。

▼ 毎月、路上に出たばかりの方を含め、新顔の参加者が、途切れることができなかった。路上生活をしていると、食べることに精一杯で、シャワーを浴びたり、洗濯をする余裕がない中、この事業は大変喜ばれ、また衛生改善の効果を上げている。最近は外見上明らかな皮膚病の方や、冬期に目立ったアカギレの方もほとんどなく、他県から視察に来るNPOを始めとする方々が一様に驚かれるのが、仙台市内での路上生活者が身ぎれいで異臭がしないということである。また、シャワー受付会場での「ゆっくり過ごす会」での、相談で自律につながった方も多い。雨や雪でも30人を下回ることはなかった。

▼ シャワー業務については仙台市からの委託事業だが、「ゆっくり過ごす会」で提供するインスタントラーメンや支援物資は、当法人からの持ち出しで賄われている。

◆ リユース事業

雇用の創出を目的に、当法人で古物商の免許を取り、2004年8月からリユースショップを開店する。行政と協力し、自律者(アパート等入居者)への生活用品の提供を柱とする事業である。「『誰も損をしない』仕組みの中での仕事づくり」を旨とする。入居用品をそろえた自律者がリピーターとして何度もショップを利用

用された。周辺に住む方々、通りがかりのお客さんが品物を買い求めることが多くなってきている。毎月行われるリユース作業日には10人～18人程度の自律者、自律途上者が参加している。

その他、納品や集荷等、それぞれの特技を生かして当事者、自律者、自律途上の方が、アルバイトをしている。

◆ リサイクルショップ 「夜まわり」

仙台市ホームレス就労支援助成金を得、雇用創出の目的で開始した。助成は2007年度で終了するも、その後、店でのリユース品販売のみならず、「なんでもや」として草刈りや片付けなど仕事内容が広がっている。行政からの依頼で、部屋片付け等の仕事も増加し、雇用の創出という意味でも今後に期待される。

◆ ビッグイシュー

月一度のベンダー会議およびソサイエティ会議に参加、および冊子ビッグイシュー卸の支援を続ける。

◆ 簡易住宅提供事業 (第2種社会福祉事業)

上飯田ハイム	2004年4月開所 入所7名 退所11名 緊急受け入れ6名 2010年3月末13名	古城ハイム	2007年6月開所 入所5名 退所4名 2010年3月末10名
なごみ	2006年3月開所 入所1名 退所1名 緊急受け入れ1名 2010年3月末7名	柴田ハイム	2008年1月開所 入所5名 退所1名 2010年3月末11名
南小泉ハイム	2006年7月開所 入所0名 退所0名 2010年3月末6名	一本杉ハイム	2009年4月開所 入所8名 退所2名 2010年3月末6名
長嶺ハイム	2006年11月開所 入所0名 退所0名 緊急受け入れ1名 2010年3月末6名	若林ハイム	2009年12月開所 入所8名 退所0 緊急一時宿泊1名 2010年3月末8名

部屋入居、保護申請、住民票設定等の初期支援から始め、自律に向けての障害者手帳取得、療育手帳取得、介護認定、多重債務の解決、離婚その他家庭問題の解決、病気治療、公営住宅申し込み等各種手続きなどの支援を行う。複数のスタッフで重層的に安否の確認、相談業務を行う。毎月、月例会、全体会、個人面談を実施。

市営、県営、その他アパートへ自立後のサポートも行い、身元引き受けや緊急連絡先受け等の支援も行っている。自律後に再び路上に戻る事の無いように、それぞれにあった公的サービス受益支援も行っている。

2009年度 事業の実施に関する事項一覧

2010.4.30

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者人数 (1/回)	受益対象者の範囲 及び人数
夜まわり事業	受益者への緊急対応・支援	通年	仙台市内各所	20人	ホームレス 定例：延べ1,130人 その他：述べ200人
炊き出し事業 ①公園での炊きし	受益者への食事・日用品提供	通年 (1/月)	五橋公園	40人	ホームレス 延べ1,155人
炊き出し事業 ②食事会、セミナー	受益者への食事・日用品提供 自立の為のセミナー開催	通年 (1/月)	福祉プラザ (五橋)	25人	ホームレス 延べ945人
グループホーム的 居宅提供事業	受益者への食住の提供	通年	若林区	10人	ホームレス 延べ20人